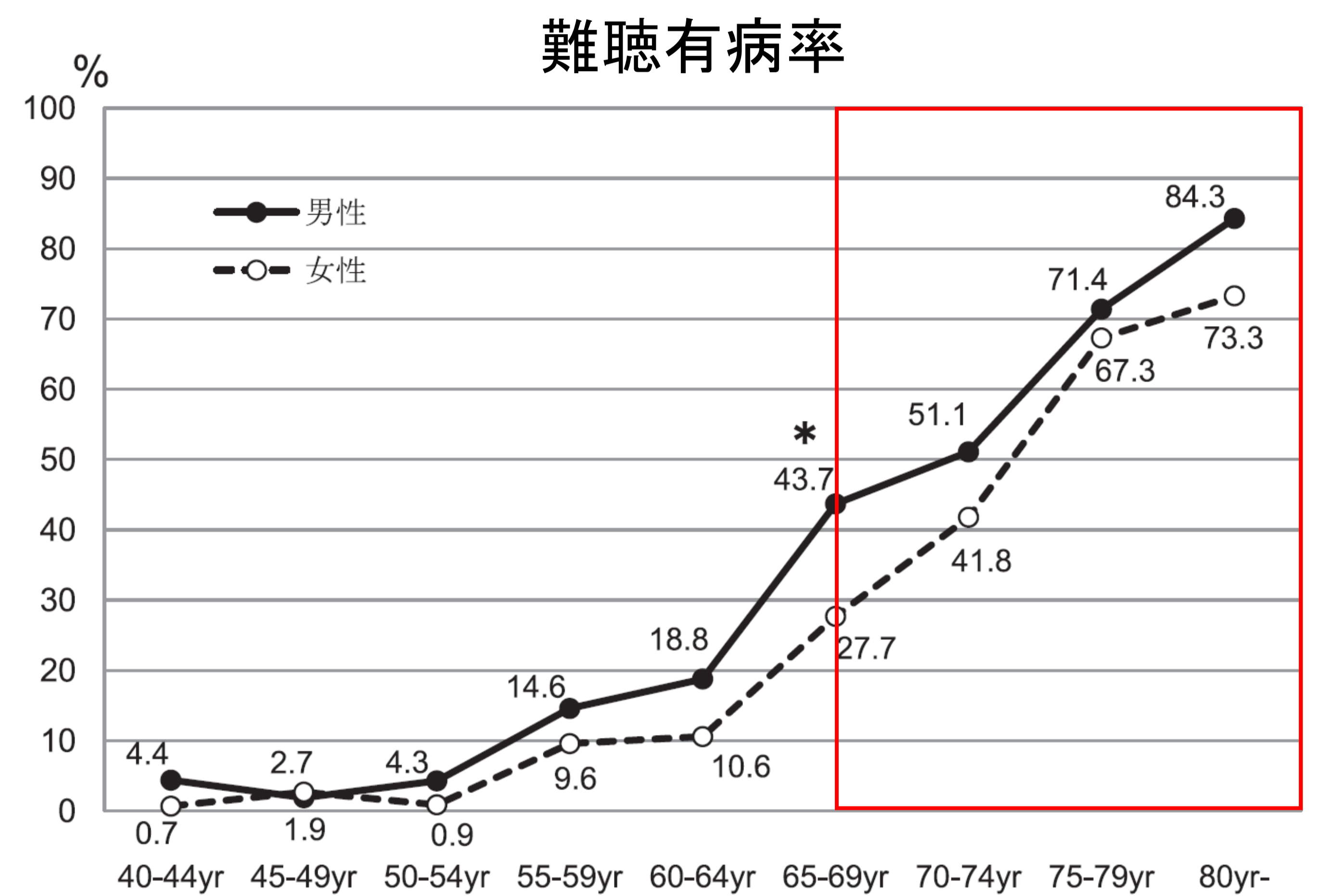


# 難聴を伴う高齢がん患者への意思決定支援サポートに関する研究

杏林大学医学部 総合医療学/腫瘍内科学  
水谷 友紀

## 背景および目的

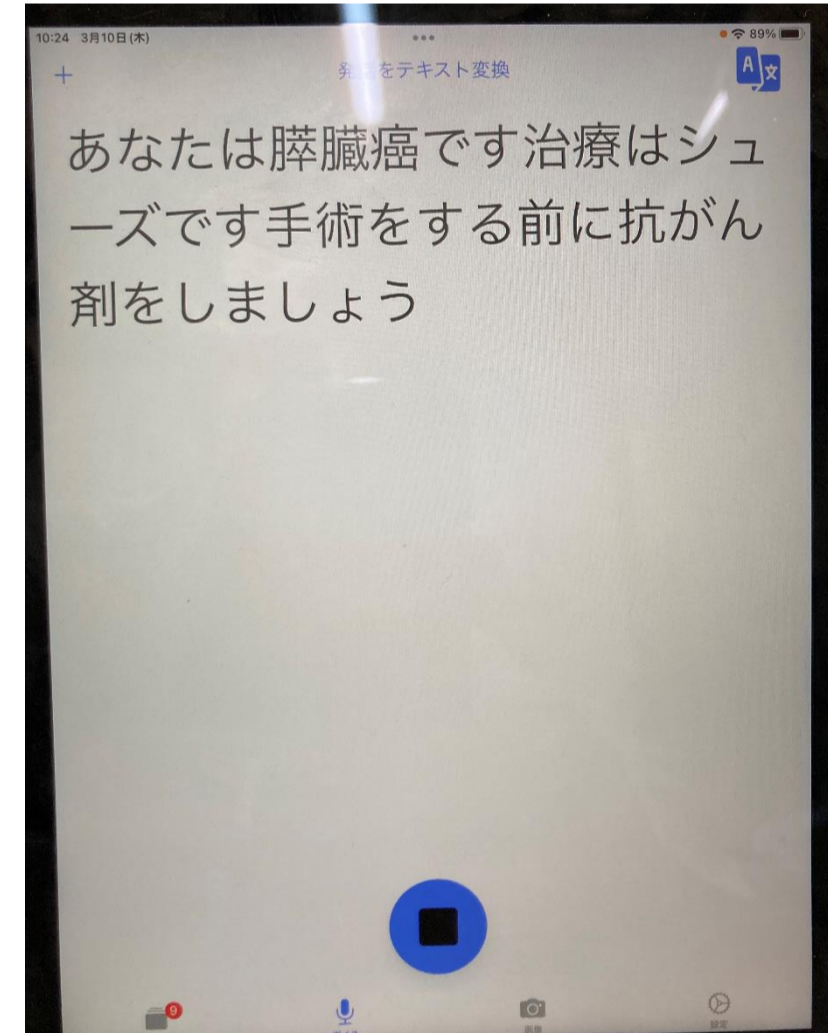
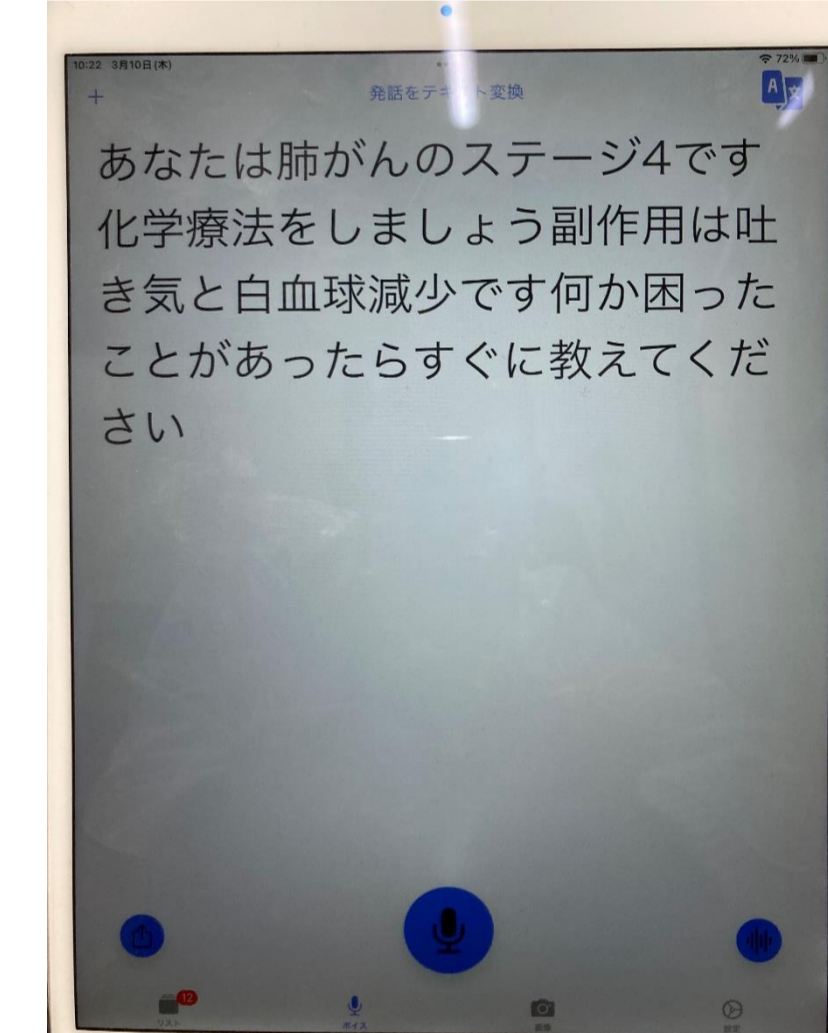
- 昨今、医療者と患者が科学的な根拠を共有して一緒に治療方針を決定するshared decision making (SDM)の重要性が叫ばれている
- しかし、社会の高齢化とともに、老人性難聴も増加しており、老人性難聴を併発している高齢がん患者には、医療者の説明が十分に伝わっていない可能性がある
- また、難聴をひきおこす薬剤(白金製剤など)もある
- 当科では、難聴を伴う高齢がん患者に病状説明する際にいくつかの工夫をしている
- これらの工夫のメリット・デメリットを記述し、難聴を伴う高齢がん患者に病状説明をする際の具体的な方策を提案することが本研究の目的である



## 方法および結果

□ 研究代表者が高齢がん患者を診察する際に用いている以下の機器のメリット・デメリットを記述する

- ◆ 集音器(ハビナース もしもしフォン®)
- ◆ ネックスピーカー(JVCケンウッド®)
- ◆ 音声の文字おこし(IPAD®など)



### <メリット>

- 糸電話の要領で、医療者の説明を集音して聞くことができる
- 簡便であり、置き場に困らない
- 比較的安価である

### <メリット>

- 患者の肩に載せたスピーカーから、医療者の説明が直接聞こえる
- 同席者にも医療者の声が届く
- 音量の最大値が最も大きい

### <メリット>

- 音声を視覚化できる
- サイズの小さいデバイスは患者が持つことができ、サイズの大きなデバイスは同席者もみることができる

### <デメリット>

- 0.5 m以内まで患者に近づく必要
- 難聴を有することの自覚がない患者には使いづらい(使用を拒否される)
- 新型コロナ禍により、接近することに拒否感のある患者には使いづらい

### <デメリット>

- 最軽量でも100 g程度と重さがある
- 充電や置き場の確保が難しい
- 比較的高価(1~3万円程度)
- 接触する機器に対して拒否感のある患者や医療者には使用しづらい

### <デメリット>

- IPADなど高価なデバイスが必要
- アプリによっては医学用語の変換が不適切(今回はTexter®を使用)
- 患者が、医療者の顔を見ず、画面に見入ってしまう

## まとめ

- それぞれ機器にメリット・デメリットはあるものの、これらの機器を使用することで、患者の理解は良くなる
- さらに、これらを使用することで、患者の難聴に医療者が配慮していることが患者に伝わるため、確実にコミュニケーションがとりやすくなる
- これらの機器を積極的に使いSDMを行うべきである

## 参考文献

1. 重篤副作用疾患別対応マニュアル 難聴(厚生労働省)
2. 全国高齢難聴者数推計と10年後の年齢別難聴発症率(日本老年医学会雑誌 2012; 49: 222-227)
3. 高齢者の難聴(日本老年医学会雑誌 2014; 51: 1-10)
4. Cisplatin is retained in the cochlea indefinitely following chemotherapy (nature communications 2017 Nov 21;8(1):1654.)